



第 24 号  
発行  
石川県剣道連盟  
広報委員会

# 石川県剣道連盟旗完成によせて

各種大会に行くとき正面に旗が何枚か飾られているのが見受けられます。

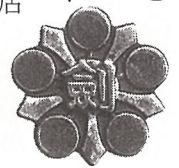
例えば石川県の大会では中央に国旗、隣に県旗、もう一方には市の旗であったり競技団体の旗等が掲げられているのを見たことがありません。しかし、剣道大会に於いては競技団体のシンボルとしての旗は、記憶している限りではありません。

本年八月に羽咋市で開催される第三十回北信越国体剣道大会、来年十月石川県で第二十三回全国健康福祉祭いしかわ大会「ねんりんピック石川2010」の剣道交流大会が同じく羽咋市で開催されます。大会に飾る剣道連盟旗を大会までに作っておこうとの強い意見を受

け総務委員会を中心として昨年秋検討に入りました。

しかし、デザインをどのようなにするか、公募するのか、デザインに依頼するのかいろいろ意見が出ました。いずれも相当のお金がかかりそうでいきづまっておりました。ここで一人の委員から昔初段に合格したら石川県剣道連盟の会員になった証しとしてバッチを貰ったとの発言がありました。バッチのデザインは加賀前田家の紋である剣梅鉢で石川県の剣道連盟旗に適しているとの意見で一致してこのデザ

インを採用することに纏まりました。意匠登録は大丈夫か、色はどうするのか旗店で検討してもらい全員一致で写真のように色、紋の大きさ等決定して十二月に完成しました。



紋の意匠は梅をしめしております。最も梅を愛した人に菅原道真公いわゆる学問の神様と崇められている有名な方がおり、公の子孫が梅鉢紋を使用したとの事です。前田家は道真公の子孫と称しておりますので、武家らしく梅の花びらの間に剣をデザインして剣梅鉢と称し前田家の紋としたようです。地の紫は「奥ゆかしい色」として古来から用いられております。剣

のもつ「おくゆかしさ」にピッタリと思います。又、同時に剣道連盟のバッチを復活させました。剣道人として誇りを持つて行動する為にも購入をお勧めします。尚連盟旗は貸し出しをしておりますので利用してください。

## ○全日本剣道連盟剣道有功賞



剣道教士七段  
田畑 武正 先生

昭和四十八年～平成二年県剣連常任理事、平成三年～平成十年県剣連副理事長、平成十一年～現在県剣連副会長、平成七年～現在は羽咋郡市剣道連盟会長

永年、県剣連の役員として企画運営の中核的存在にあり、その卓越した指導力企画力により連盟発展に大きく寄与した。また県学校剣道連盟会長として武道の正課導入に伴う指導者の育成に取り組むなど学校剣道の普及発展に多大な功績があった。教職にある間、インターハイ七回、国体監督六回を果たし、競技力の向上に努めた。石川県代表選手としても国体九回、東西対抗四回、都道府県対抗五回の選手として活躍した。



## 居合道の効用

居合道五段

高橋 吉隆

私が居合道を始めたのは昭和四十九年のことです。今年でも三十余年になります。ずいぶん永い間居合道に親しんできたものだと思いますが、その割には一向に腕が上がらないことは残念なことです。

私が居合道を始めたキツカケは高校生の時に友人の家から貰った軍刀を何か活用できないものか思案したところ、世の中に「居合抜き」という武道があることに思い至りました。しかし当時は居合道に対する知識にとぼしく、まして金沢に居合いをする人がいるとは思ってもよらず、独学のため加茂治作著の「居合道入門」という本を買って読んだところ、政岡先生という偉い先生が県内にいることが分かりました。巻末に住所が載っていたので、政岡先生あてに弟子にしてほしいと葉書を出したところ、

ご家族から先生は少し前に亡くなりましたというコメント付きの付箋が貼られて、葉書が戻ってまいりました。

途方にくれ、いろいろ訪ね歩いた末に当時警察学校におられた尾野寺広海先生に出会い、ここから私の居合道修行がスタートいたしました。それからは先生の勤務地にあわせて練習場を点々としましたが、ほぼ先生と弟子の私一人で四段まで懇切に教えていただき、本当に尾野寺先生には深く感謝いたしております。そのため今でも私の居合いは尾野寺先生の居合いが色濃く残っております。

その後、養浩館にごやっかいになり今日に至りますが、ここでは福久先生がおいでになりました。その時分になりますと福久先生はもうご高齢であり実技の指導というより、理合や人生訓などのお話を聞くのが楽しみでした。記憶に残っている話では、昔の人は自分の刀を他人に絶対触れさせなかつたそうです。なぜなら自分の刀の長さや重さが一瞬にして人に知られてしまうからです。

居合道修行は、日本刀の操作法を通して、身体の運用を極めるとともに人格の練成に努めるものとして理解していますが、昔の侍であれば居合いは武士の素養として不可欠なものでしたが、今日では刀を市中に携行する訳にもいかず、もっぱら精神修養の側面が大きいのと思います。特に日本刀には不思議な力が宿っているように信じられており、これを使って修行に励むことは精神を鍛える効果が大きいと思います。

刀は一面では凶器であり、刀を抜いて人を斬れば「おおごと」となり、例え我が身を守った場合でも後で後悔することにもなります。ある人の言葉では、刀は核兵器のようなもので、持っているだけでパワーと存在感を発揮するが、一旦抜けば悲惨な状況となってしまうので、使用にあたっては強い自制心が必要とされます。江戸時代の侍でも使うに使えず、公務以外には抜くことはほとんどなかったとしております。

子供のころ私の家には土蔵の中に錆びた脇差があり、親に内緒で

自分で研いで時々ながめていましたが、子供ごろにも日本刀に触れるだけで、何か安心が得られ、何か不思議な勇気がわいてくる気がしたものでした。

生きていくには気苦労の多い世の中ですが、私が今日まで生きてこられたということは、居合道修行によって多少なりとも勇気と自制心が涵養されたお陰なのかもしれません。気づかなかつたが居合道が人知れず、少なからず、私の人生に関わり、それなりの役割を果たしてきたのだらう、と時折り居合道に感謝しています。

最後に、「術に終期なし、死をもつて終わりとなす。」という言葉があります。今後とも無理せず、地道に居合道修行に精進していきたいと思っております。





## 剣道オバサンです



剣道五段  
久田 和美

格調高い「剣風春秋」になぜ私がでてくるのかはわかりませんが、普通の主婦が剣道をする事になったきっかけからお話ししよう。

剣道に出合ったのは高校時代。小さい頃よく見たチャンバラ映画の影響が潜在意識にあったのかもありません。でも、当時は女性部員はいなかったのであきらめました。初めて竹刀を握ったのは二十歳の頃。素振りを教えてくれる人がいて、同僚と二人で暇な時に素振りだけをしていました。面はほとんどつけたことがないのに、なぜか初段になっていました。そしてそれ以上の進展は全くいつの間にか忘れ去っていました。

次に竹刀を握ったのは、長男が芳斉剣道スポーツ少年団に入ってから。役員になって毎回見ているうちに「やってみたら？」と勧められました。よくある話ですよ。

何年か子供達とやっているうちに、こんな私が元立ちになっては子供たちに申し訳ないと思い始めました。そんな時県立武道館の剣道教室を知り、見学してすぐに申し込みをしました。先輩教室生は四人でした。素晴らしい先生方と素敵な先輩達。和気あいあいとやっているうちに教室生はどんどん増え、十数名になったこともあり増えました。稽古の後にお茶を飲みながら、剣道談議や家庭のことなどおしゃべりしながら励まし合ったものです。この頃は各地域に同じような女性剣道愛好者も増えており、家庭婦人剣道大会での交流を楽しみにしておりました。その後故津雲先生や教育委員だった石野和子先生の肝いりで石川女性武道の会が設立され、閑そうな私が剣道の窓口となり、各地域持ち回りで剣道講習会をしました。普段稽古できないような先生方にご指導いただき、皆さん更に剣道に磨きをかけていきました。夢は大きく広がり、全国の女性剣道愛好者との交流を目指し岡山県での第一回お通杯剣道大会にも参加しました。

二十代から六十代までの女性が竹刀を交えます。有名な方から普通の方まで、一堂に会して剣道を楽しんでいきます。自分より年配の女性がたくさん頑張っていると思うと、随分励みになります。思いっきり稽古して、おいしい料理を食べ、温泉で疲れをいやす。皆さん夫婦で、家族で、毎年のように参加しています。遠いけどとても楽しみな大会です。

剣道の向上を目指して稽古をしていたつもりでしたが、五段の審査でその未熟さを思い知らされました。何度受けても合格できず、技術面でも精神面でもどうしたら良いのかわからず、もう無理かもと思いつつ始めた土曜日の稽古。何の気なしに稽古をお願いし、竹刀を合わせた時、さわやかな風を感じ、打つても打つてもその方にかすりもしません。終わった時には感動がこみ上げ、その方の名前すら覚えていませんでした。自分もそんな剣道がしたいと思うと、落ち込んでいた気分もどこへやら。稽古がしたくてたまらなくなりました。幸い、励まし合う仲間や稽

古してくださる先生方や先輩が沢山いて経験談やアドバイスもたくさんいただきました。おかげさまで五段になって二年になりました。この時ほど「継続は力なり」と思った事はありません。大げさかもしれませんが、いい事も悪い事もすべての出来事と出会いに感謝しています。すべてにおいてまだまだ未熟な私です。火曜と木曜の連盟の稽古には、たいいていおられますので稽古をつけてくださいませ。

お待ちしています。頑張ろう！剣道オバサンそして剣道オジサン達。最後に「アンタがこれまで剣道が続けてこられたのはおれが我慢しているからだ」と夫はよく冗談(?)を申しますが、まことにその通りと思っています。そして剣道があったからこそ、人生の試練も乗り越えられた気がするのです。

とりとめのない文章になりましたが、振り返る機会を与えてくださった榎谷先生・押田先生、そしてわがままな稽古を許してくださいる先生方に感謝しつつ、筆をおきたいと思います。





# 竿頭進歩

養浩館館長 押田弘光

石川県立武道館が開館して間も

ない頃でした。故小川忠太郎先生

を講師に迎えて剣道指導者講習会

が開催された。先生から開口一番

に「百尺の竿頭一歩進む」この意

味を腹底から分かつて欲しい。分

かるようになったら剣道を続けて

きて本当によかったと思いますよ

と話されました。それ以上の詳し

い説明がなかったもので、当時の私

には一体何のことだか全く理解で

きませんでした。後日、この言

葉の出典「無門関」を見つけました。

この書物は一二二八年に中国が南

宋といった頃、僧無門慧開によつ

て著述されたものです。無門関は

禅問答の代表的なテキストであり、

竿頭進歩は第四十六則の公案にあ

たります。禅語はとても難解で、

人によって解釈も異なります。小

川先生は剣と禅を修行された方で、

たまには座禅でもしながら腹でじ

つくり考えてみよといわれたので

しよう。同じ言葉が道元禅師の教

えを記した「正法眼蔵随聞記」の

中にも見い出されます。

私には、座禅の体験が乏しいの

で、これまで続けてきた剣道と無

刀流の組太刀稽古を基に、お叱り

覚悟で推察したことを述べます。

百尺（三十三m）の竿頭に至る

ということは、比喩した表現であ

って禅の修行は座禅することを中

心にしたギリギリの生活を通して

人生の真理を求めするのであるから

そこまで達したとは、悟りを得た

というのでしょうか。臨濟宗では

禅問答の応酬により弟子の修行が

熟し、その境地に達しているか否

かを師がよく見極めて印可を授け

るとのことである。

私は仏道のみに限定せず、質の

違いがあっても、広く各種の分野

においてその人が残した業績・作

品等々から人間国宝に値するよう

な人たちをも、この範疇に含めて

よいような気がいたします。

その道の頂点を究めることは、

並の努力では適うものではなく、

その人の天性の資質に加えて不断

の精進しかありません。

次に竿頭より一歩進むとはどん

な意味なのか。仏道修行は、悟り

を得たから終りなのではなく、悟

った上にも更に大なる悟りを求め

続ける終着駅のないものだと思い

ています。剣道もまた然りで私の

知る西善延先生は九十二歳になら

れても兀々と稽古を続けられるので、

弟子たちが氣を使い、「先生もう

少し身体を労ってください。」と

いっても一向に聞き入れてもらえ

ず、稽古三昧の日々を送っておら

れます。正に剣道人のお手本であり、

けがれない修行者の真の姿だと

心服しています。かつて大乗寺の

故清水浩龍老師より「剣禅一味」

の揮毫を頂いています。が、剣も禅

も根本は同じであり、捨て身で取

り組む生涯学習と捉えます。そし

て仏道にあつては、悟りの中に安

住する（竿頭にしがみついている。）

のではなく、世の中に身を投じて、

未だ悟りに至らぬ人を導き、人間

国宝級の人にあつては、一生を掛

けて苦心し、心血を注いで会得し

た技術（宝物）等をその人一代で

絶やさないうまう志を同じくする後

輩にうまく伝えて後世に残すこと

も大事なことであり、小川先生は、

こころ辺りのことを剣道と絡ませ

て話されたのでしょうか。

あの十牛図（童子が靈牛を尋ね

る北宋末頃の物語で禅の修行の課

程を絵で示したもの）の十番目に

出てくる入麁垂手の絵も布袋和尚

が魚屋に説教をしているものであり、

自己の修めたことを大衆に及ぼす

意との説明がありますから同じよ

うなことを述べています。

最後に小川先生は、「生涯に会

心の面一本」を求めて稽古を続け

られたことを付け加えておきます。

まことに浅薄で勝手な解釈をご

容赦ください。

## 訃報

道場 榮春先生

平成二十一年三月一日逝去

享年七十八歳

前小松市剣道協会々長

平成十七年度至剣連剣道有功賞受賞

永年に亘り、県剣道連盟理事・

小松市剣道協会々長として、剣道

普及発展に努める。選手として県

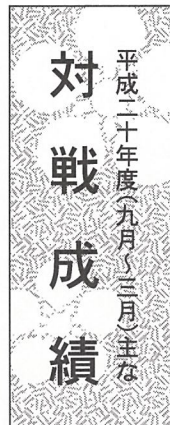
体・国体・ねりんピックで活躍。

また正武旗争奪全国高校剣道石

川大会の開催に尽力した。

今江有信館々長として少年剣道

の普及にも貢献された。



【県内大会記録】

◎石川県高等学校新人体育大会

剣道競技

11月13日(木)～15日(土)

小松桜木体育館

〔男子団体〕

優勝 金沢桜丘高等学校

準優勝 金沢高等学校

第三位 星稜高等学校

〃 金沢市立工業高等学校

〔女子団体〕

優勝 金沢高等学校

準優勝 星稜高等学校

第三位 金沢桜丘高等学校

〃 羽咋高等学校

〔男子個人〕

優勝 土谷 有輝(金沢)

準優勝 宮川 昌尚(羽咋)

第三位 金田 直也(羽咋工)

〃 但田 雅俊(桜丘)

〔女子個人〕

優勝 高島なつみ(金沢)

準優勝 森岡 奈美(桜丘)

第三位 桶作 穂(桜丘)

〃 長塚美可子(金沢)

◎第37回 県スポーツ少年団

剣道交流大会

12月7日(日)

いしかわ総合スポーツセンター

〔団体の部〕

優勝 森本スポーツ少年団

準優勝 大崎スポーツ少年団

第三位 アカシアスポーツ少年団

〃 千里浜スポーツ少年団

〔小学4年男子の部〕

優勝 中越泰士郎(邑知)

準優勝 高見 将吾(アカシア)

第三位 山岸 文也(警察学校)

〃 竹中 亮太(高松)

〔小学5年男子の部〕

優勝 駒井 奨(鹿島)

準優勝 佐川 文隆(警察学校)

第三位 山瑞 大貴(千里浜)

〃 大久保直季(アカシア)

〔小学6年男子の部〕

優勝 高西 祥(千里浜)

準優勝 西田 耕平(川北)

第三位 高木麟太郎(大崎)

〃 中川 和也(内日角)

〔小学4～6年女子の部〕

優勝 枘田 千穂(游神館)

準優勝 濱田 詩織(鹿西)

第三位 神保 菜摘(蕪城)

〃 北川みさき(アカシア)

〔中学男子の部〕

優勝 枘田 拓真(游神館)

準優勝 大田 貢平(蕪城)

第三位 大澤 拓海(千代野)

〃 酒井 優樹(宇ノ気)

〔中学女子の部〕

優勝 鍋谷 実夢(宇ノ気)

準優勝 岡田麻里子(千里浜)

第三位 森田 真衣(松陽)

〃 前田 絢香(一ノ宮)

◎第17回 松本旗争奪

石川県高等学校選抜剣道大会

1月25日(日) 石川県立武道館

〔男子団体〕

優勝 金沢桜丘高等学校

準優勝 星稜高等学校

第三位 金沢高等学校

〃 金沢市立工業高等学校

〔女子団体〕

優勝 金沢高等学校

準優勝 星稜高等学校

第三位 金沢桜丘高等学校

〃 金沢学院大学東高等学校

◎第42回 新春森本剣道大会

2月1日(日) 森本市民体育館

〔団体〕

優勝 金沢大学A

準優勝 金沢刑務所A

第三位 山中剣友会

〃 金沢星稜大学A

〔個人〕

優勝 森 尊史(うのけ幼稚園)

準優勝 歌 友真(金沢星稜大)

第三位 大野 優樹(金沢星稜大)

〃 岩崎 公亮(山中剣友会)

◎第23回 石川県中学生選抜剣道大会

2月21日(土)

かほく市南部体育館

〔男子団体〕

優勝 宇ノ気中学校

準優勝 松任中学校

〔女子団体〕

優勝 羽咋中学校

準優勝 津幡中学校

〔男子個人〕

優勝 枘田 拓真(城南)

準優勝 西川 大貴(松任)

〔女子個人〕

優勝 英 あおい(津幡)

準優勝 生瀬 早希(津幡)

◎第57回 全日本都道府県対抗剣道優勝大会石川県代表

2月15日(日) 石川県立武道館

先鋒 藤井 大(金沢高)

次鋒 久保 洸旗(金沢大)

五将 佐藤 博之(北陸総合警備保障)

中堅 石井 敬(森本中教員)

三将 米山 友博(県警察機動隊)

副将 藤井 勝司(小松市役所)

大将 本橋 克也(鹿西高教員)



【県外大会記録】

◎第47回 全日本女子剣道選手権大会

9月7日(日) 静岡県武道館  
石川県代表 藤田 涼香(城北病院職員)  
藤田 涼香 一ノメ 近藤 恵子  
(大阪)

◎第54回 全日本東西対抗剣道大会

9月14日(日)  
岡山県体育館桃太郎アリーナ  
石川県代表 小田 哲生(金沢桜丘高教員)  
小田 哲生 一ノメ 竹内 司  
(岡山)

◎第3回 全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会

9月14日(日) 大阪・舞洲アリーナ  
「小学生の部」予選リーグ  
石川 0-3 福島  
石川 1-2 滋賀  
石川 1-3 佐賀

「中学生の部」予選リーグ

石川 1-3 千葉  
石川 0-2 京都

◎第63回 国民体育大会剣道競技

10月4日(土)~6日(月)  
大分・大原総合体育館  
「成年女子一回戦」  
石川 0-3 埼玉

下村⑤メ  
千葉⑤ドメ⑥稲垣⑥  
岩脇⑥コメ⑥松田⑥

「成年男子一回戦」  
石川 1-3 滋賀

上登④ココ④増田④  
星野⑤メコ⑥高田⑥

◎居村⑦メ  
⑥茅垣

◎第56回 全国警察剣道大会

10月16日(木) 日本武道館  
「第一部」予選リーグ  
石川 2-3 埼玉

◎石川 2(代義) 2 岡山  
勝者数の差でリーグ三位

◎第43回 全日本居合道大会

10月25日(土) 仙台市体育館  
「石川県代表」  
五段の部 山口 春夫 二回戦敗退  
六段の部 作田 剛也 二回戦敗退  
七段の部 河西 洋治 二回戦敗退

◎第18回 北信越高等学校剣道大会

2月7日(土)・8日(日)  
庄川体育センター  
「男子団体」  
第三位 金沢桜丘高等学校  
金沢市立工業高校、金沢高校はリーグ戦敗退。星稜高校は、準々決勝で敗退。

「女子団体」  
第三位 羽咋高等学校  
星稜高校、金沢桜丘高校、金沢高校、羽咋高校ともに予選リーグ突破したが、星稜高校、金沢桜丘高校、金沢高校は、準々決勝で敗退。

◎第18回 全国高等学校剣道選抜大会

3月27日(金)  
愛知県春日井市総合体育館  
「男子団体」予選一次リーグ  
金沢桜丘0-2 日吉ヶ丘(京都)  
◎金沢桜丘1(本数) 1沼田(広島)

大田⑦  
北野⑦(引分) ⑧重松

「女子団体」予選一次リーグ  
金沢0-2 大社(鳥根)  
◎金沢1-0 恵庭南(北海道)

審査会合格者

剣道 七段

木倉 隆雄 宮永 裕嗣  
佐竹 康弘 東 純一  
中 徹 山越 忠則

剣道 六段

村山 次哉 小村 龍三  
宮谷 秀二 東 秀夫  
組橋 貞夫 梅 幸彦  
小松 功典 米山 友博

剣道 五段

東屋 毅志 白尾 隆次  
黒氏 晴夫 羽佐間 裕  
室谷 智代 富田 東

剣道 四段

本吉 秀充 細井 将守  
西村 典文 井尾 雅昭  
加地 伸弥 山本 剛

剣道 三段

杉本 卓也 松田 信一  
吉岡 久徳 高 誠逸郎  
吉岡 軌悦 吉田 隆

居合道 七段

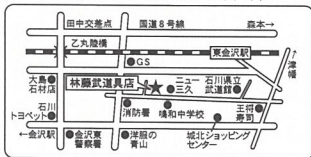
松原 剛 木村 正仁  
五段 剛 木村 正仁  
由井 伸彦  
錬士 剛也

林藤武道具店

〒920-0803 石川県金沢市神宮寺町1番地83  
Tel.076-252-2220 Fax.076-252-2240  
E-mail:budou@po3.nsknet.or.jp

〔営業品目〕  
剣道・柔道・空手・なぎなた・武道具全般  
(刺繍・ゼッケン・ネームプリントも承ります)

●定休日/月曜日



武道具の  
ハシモト  
KIRI BRAND

金沢市上荒屋7丁目67 TEL 249-8233  
〒921-8065 FAX 249-9139